



宮澤 議員

**農業者のICT研究会に
防災の観点で参加しては**

町長 コスト等で導入はハードルが高い
研究・協議を進めることが大事

**「ICT活用による
まちづくり」について**

質問 本町の人口動態が
まとも、昨年12月末人
口は3,335人、高齢化
率は39・52%となり、
農業部門においても生産
人口の減少と高齢化の中
で広範囲にわたる農作業
を行っているのが現状で
ある。

このような状況下、北
はるか農協下川支所と農
業者が主体となり、ICT
Tを利活用し「スマート
農業」の実現に向け、「I
CT農業利活用研究会」
(仮称)を立ち上げるこ
とになっており、次の2
点について伺いたい。

①GPS補正用のRTK

基地局の設置
②全町の課題である人手
不足解消に向けたロボッ
ト技術の活用

町長 ①既にGPS
ガイダンスを導入し
た農業者の事例では、
作業者の負荷が軽減
されるなどの効果が
確認されている。今
後は導入コストや効
果など、活用方法を
含め農協などと議論
を進めることが必要
と考えている。

②農業関係で畜産取
益力向上クラスター
事業における搾乳ロ
ボット導入による労
働負担の軽減が図ら
れているほか、北海

道立総合研究機構との協
力協定に基づき「農業に
おける省力・軽労化技術
の開発に係る調査」を進
めている。



GPS装着車トラクター
イメージ

再質問 この技術の利用
は農業分野だけでなく、
下川でも最近ゲリラ豪雨
などにより水害なども発
生している。

町民の安心安全に向け
て地域気象情報などをい
ち早く察知することが重
要である。農協、若い農
業者が積極的に検討委員
会を立ち上げるというこ
とで、町も一緒にそのテ
ーブルに乗って協議の場
に参加することは可能か。

町長 時代はもうそこ
まで来ていると思いま
すので、先ほども答弁
したように、コストの
問題、指導者の問題な
どいろいろあり、そう
いうところがしっかり
整備されていくことが
できれば導入はやぶさ
かではないかと考えて
いる。ただ、現状では
まだハードルが高く、
いろいろと研究をした

り、協議をしながら進め
ていくことが大事ではな
いかと考えている。

再質問 農業者の中には
まだ下川ではこの技術は
まだ早いという意見もあ
るが、新規就農者など希
望を持って下川町で農業
に取り組みたいという人
もおり、そういう人達の
希望をいかしてあげられ
るように全面的に協力し
ていきたい。



搾乳ロボット